

5月7日 パプアニューギニア、ニューギニア東部の地震

2019年5月7日06時19分（日本時間、以下同じ）にパプアニューギニア、ニューギニア東部の深さ146kmでMw7.1の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、北北東-南南西方向に張力軸を持つ型である。

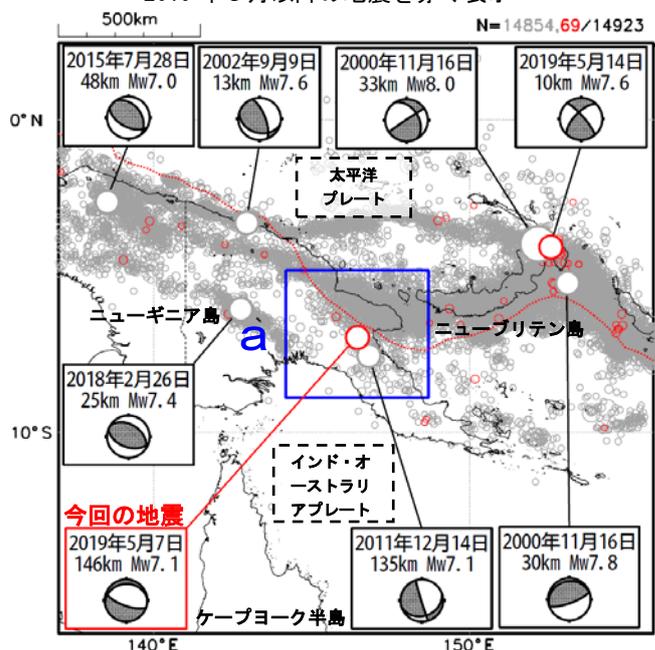
気象庁は、この地震に対して、同日06時46分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。

2000年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生している。また、M7.0以上の地震では、2011年12月14日にMw7.1の地震が発生した。

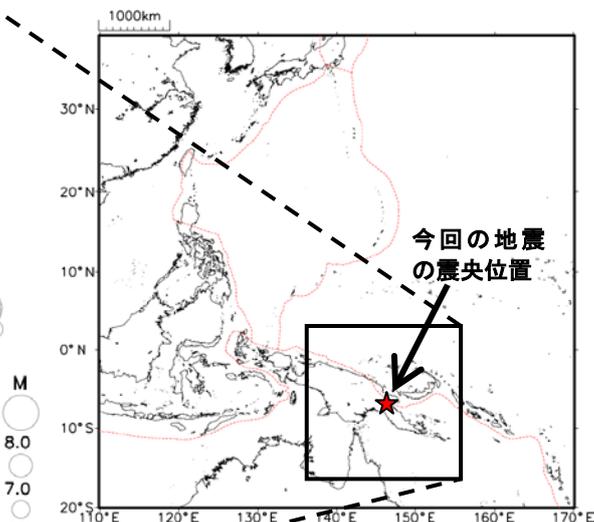
領域aに隣接する地域でもM7.0を超える地震が幾度か発生している。最近では、2018年2月26日にMw7.4の地震が発生し、多数の死傷者と物的被害が生じた。

1970年以降の活動をみると、今回の地震が発生した地域ではM7.0以上の地震が頻繁に発生しており、1996年2月17日にはMw8.2の地震が発生し、父島で104cm、串本（和歌山県）で96cmなど、日本でも津波を観測した。

震央分布図
(2000年1月1日~2019年5月31日、深さ0~150km、M≥4.0)
2019年5月以降の地震を赤く表示

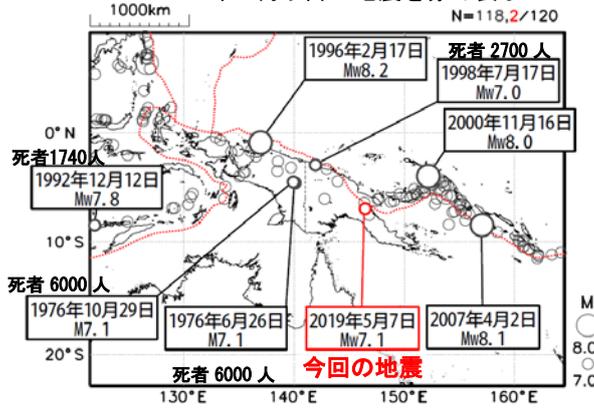
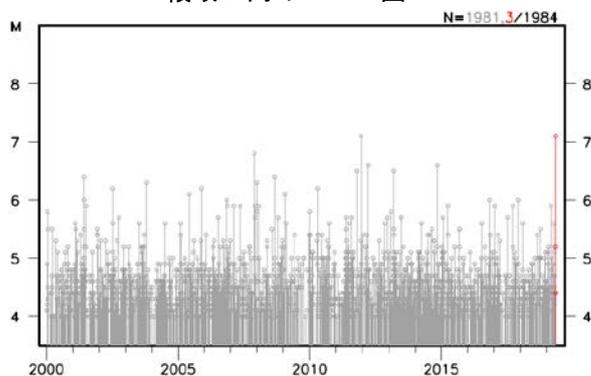


■■■■■ プレート境界の位置



震央分布図
(1970年1月1日~2019年5月31日、深さ0~150km、M≥7.0)
2019年5月以降の地震を赤く表示

領域a内のM-T図



今回の地震、M8.0以上の地震、及び死者1000人以上の地震に吹き出しを付けた。

※本資料中、震央分布図に吹き出しの注釈がある2009年4月以降の地震（今回の地震を含む）の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構はGlobal CMTによる。また、1970年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2019年5月31日現在）。プレート境界の位置はBird（2003）より引用。2018年2月26日のMw7.4の地震の被害はOCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による。その他の過去の被害は、宇津及び国立研究開発法人建築研究所国際地震工学センターによる「世界の被害地震の表」による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.